

第 13 回 苦 小 牧 市 総 合 教 育 会 議

日 時 令和3年11月19日（金）
午後2時

場 所 本庁舎5階第2応接室

会 議 次 第

1 開会の宣言

2 議題

(1) 苦小牧市立小中学校規模適正化「現状と課題」について

3 その他

4 閉会の宣言



苫小牧市立小中学校規模適正化

「現状と課題」

令和3年12月1日

苫小牧市教育委員会

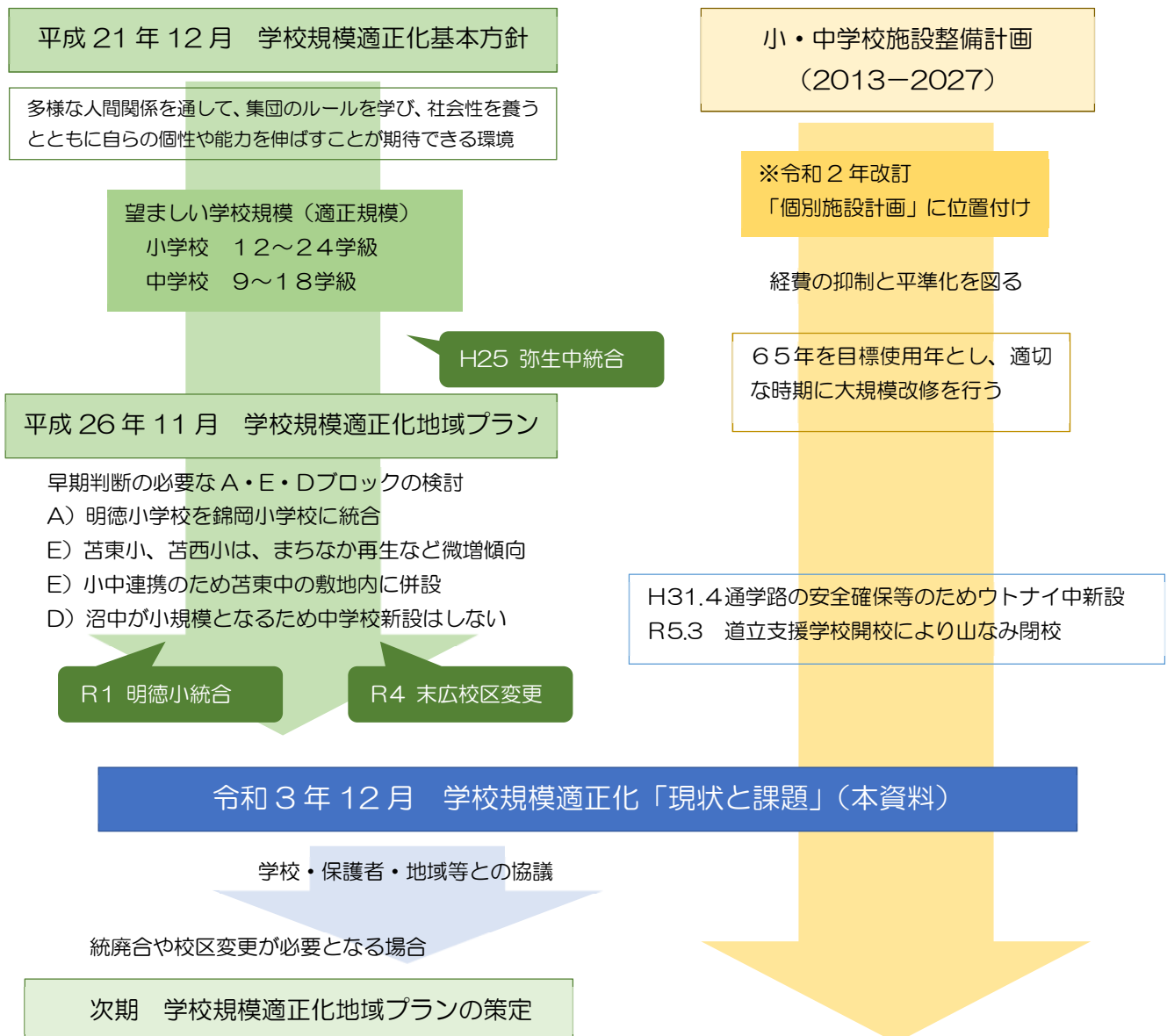
第1節 「現状と課題」の考え方について

1. はじめに

教育大綱に掲げる「未来の社会をつくる人づくり」を実現するため、「苫小牧市小中学校規模適正化基本方針」に定める「望ましい学校規模」を踏まえつつ、人口減少に伴う少子化の進行、アフターコロナにおける健やかで多様な学びの保障、地域コミュニティの充実などの視点を加えて、「望ましい教育環境」の整備を推進するため、本市の現状と課題を整理する。

2. 本資料の位置付け

本市の現状と課題を整理し、基本方針に基づく統廃合や通学区域の変更の必要性（地域プラン策定）について検討するための資料とする。



3. 本市全体の現状と課題について

(1) 本市における少子化の進行と人口分布の傾向



本市児童生徒数は、1985年（昭和60年）の24,196人をピークに年々減少を続け、2021年（令和3年）には、13,132人、学年平均1,459人となっており、2021年度（令和2年度）の新生児が就学となる2027年（令和9年）には、11,668人、学年平均1,296人となる見込みです。

また、「苫小牧市都市マスタープラン（第2次）」（2019年4月）による本市の将来人口は、2040年に15万人程度を目標としており、この場合、2025年（令和7年）の15歳未満人口推計が19,581人で学年平均1,305人、2040年（令和22年）には15,701人で学年平均1,046人まで減少することになります。

児童生徒数の減少に伴い学校規模も小規模化が進行し、令和3年度には過小規模校3校、小規模校11校となり、望ましい教育環境を提供するための課題となっています。一方で、東部地区の大規模な宅地開発が進み、平成20年以降には拓進小、青翔中、ウトナイ中の分離新設や青翔中の増築などの対応をしており、今後も新規の宅地開発が見込まれるため、更なる設備投資が必要となることも考えられます。

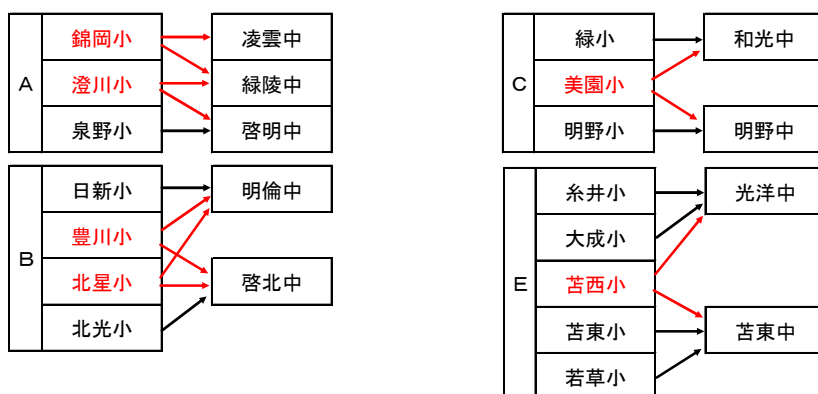
		過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
区分	小学校	～5学級	6～11学級	12～24学級	25～30学級	31学級～
	中学校	～2学級	3～8学級	9～18学級	19～24学級	25学級～
R3	小学校	3校 〔勇払 樽前 植苗〕	5校 〔清水 苫東 苫西 若草 糸井〕	14校	1校 〔ウトナイ〕	なし
	中学校	なし	6校 〔凌雲 開成 明野 沼ノ端 勇払 植苗〕	8校	1校 〔青翔〕	なし
R9	小学校	3校 〔勇払 樽前 植苗〕	9校 〔北星 日新 清水 明野 苫東 苫西 若草 大成 糸井〕	10校	1校 〔ウトナイ〕	なし
	中学校	なし	7校 〔凌雲 開成 明野 沼ノ端 苫東 勇払 植苗〕	7校	1校 〔青翔〕	なし



(2) 小中一貫・連携教育の推進

本市においては、令和2年3月、苫小牧型小中連携教育「Tomakomai ALL-9」推進基本方針を策定し、小・中9年間の確かな成長を目指す中学校区単位での取組を推進しています。

しかしながら、一部の地域では、小学校の通学区域が複数の中学校の通学区域にまたがっているため、卒業生が複数の中学校に分かれて進学する状況があり、小中連携、特に中学校区での各種取組に課題があります。



(3) 地域共同体制の確立（コミュニティ・スクールの推進）

現在、勇払小学校・中学校、清水小学校・開成中学校の2地区でコミュニティ・スクール（学校運営協議会を置く学校）を導入し、地域と一体となった学校運営に取り組んでおります。

しかしながら、前項で挙げた中学校区の不一致に加え、町内会等の地域コミュニティの地域割りと不一致もあり、学校・家庭・地域の連携を図りにくい状況が生じています。

4. 施設の老朽化に伴う施設整備計画との連携

学校規模適正化と安全な施設整備を推進する施設整備計画とは目的が異なるものではありませんが、厳しい財政状況の中、相互に最善の機会を検討するために連携が必要となります。

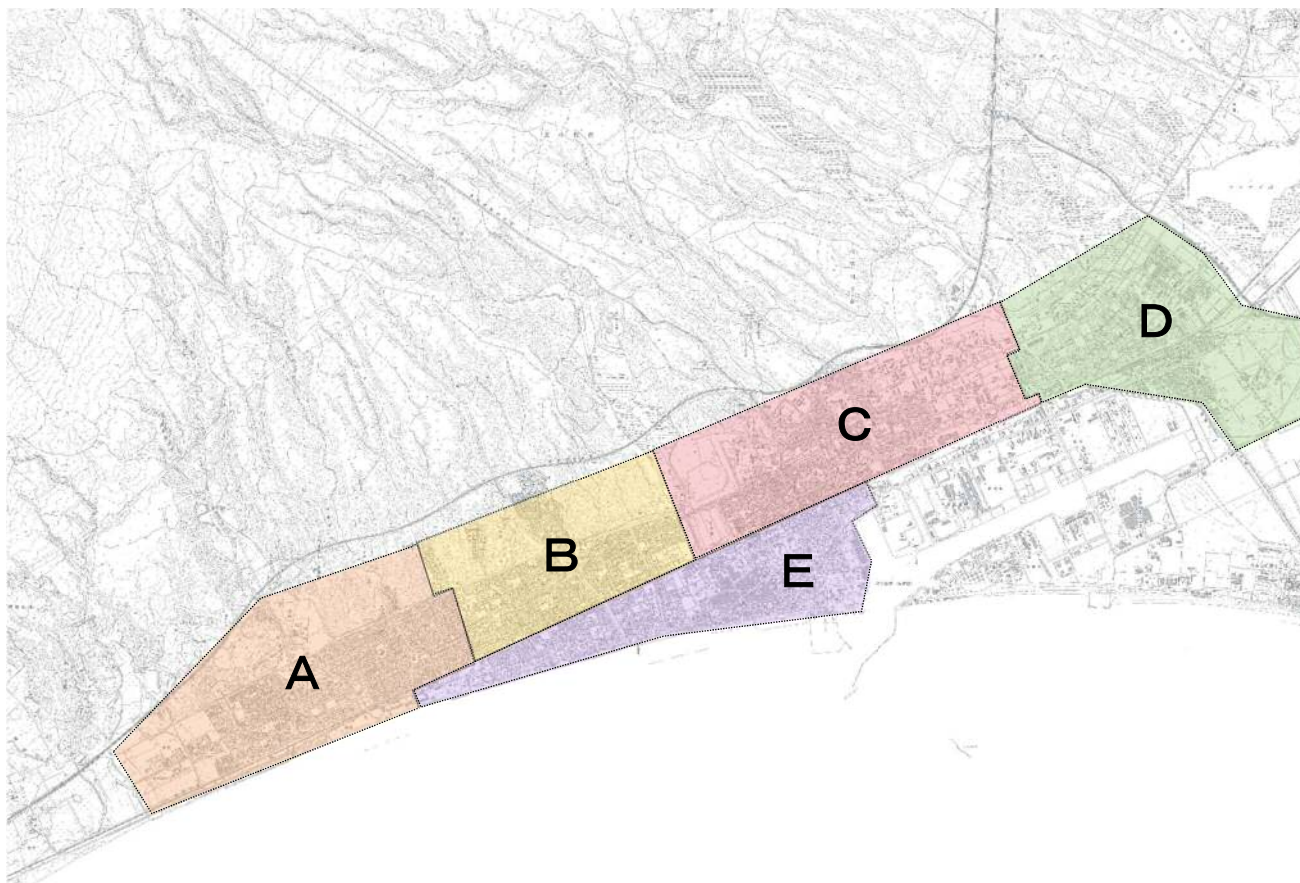
	実施内容	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)
A	凌雲中 (改築)							
B	日新小 (大規模改修)							
C	清水小 (改築)							
D	沼ノ端小 (大規模改修)							
	沼ノ端中 (大規模改修)							
E	大成小 (改築)							
	苫西小 (大規模改修)							
Z	勇払小 (大規模改修)							
	植苗小中 (大規模改修)							
	樽前小 (改築)							

調査・設計: 改築・改修工事:



第2節 各地区別課題について

1. 各地区の配置状況



2. 各地区の現状及び課題について

○苦小牧市の小中学校の現状について

- ① 学校位置図：各地区における学校の位置や校区について、小学校を青線、中学校を赤線で示す。
- ② 児童生徒数推移：令和3年5月1日時点の住基情報から児童生徒数・学級数を算出する。

○課題抽出における視点

- ① 学校規模（学級数）：基本方針に定める学校規模の視点から評価を行う。
- ② 学校配置：通学路の安全性や通学距離の評価を行う。
- ③ 小中学校の一貫・連携教育：小中学校の校区の不一致など小中連携の視点から評価を行う。
- ④ 地域との連携：学校区と町内会区の不一致等について評価を行う。

○課題解決に向けた検討例

- ① 校区例について、変更前の校区を実線、変更後の校区を点線で示す。
- ② 統合により閉校を検討する学校は緑色で示す。

A

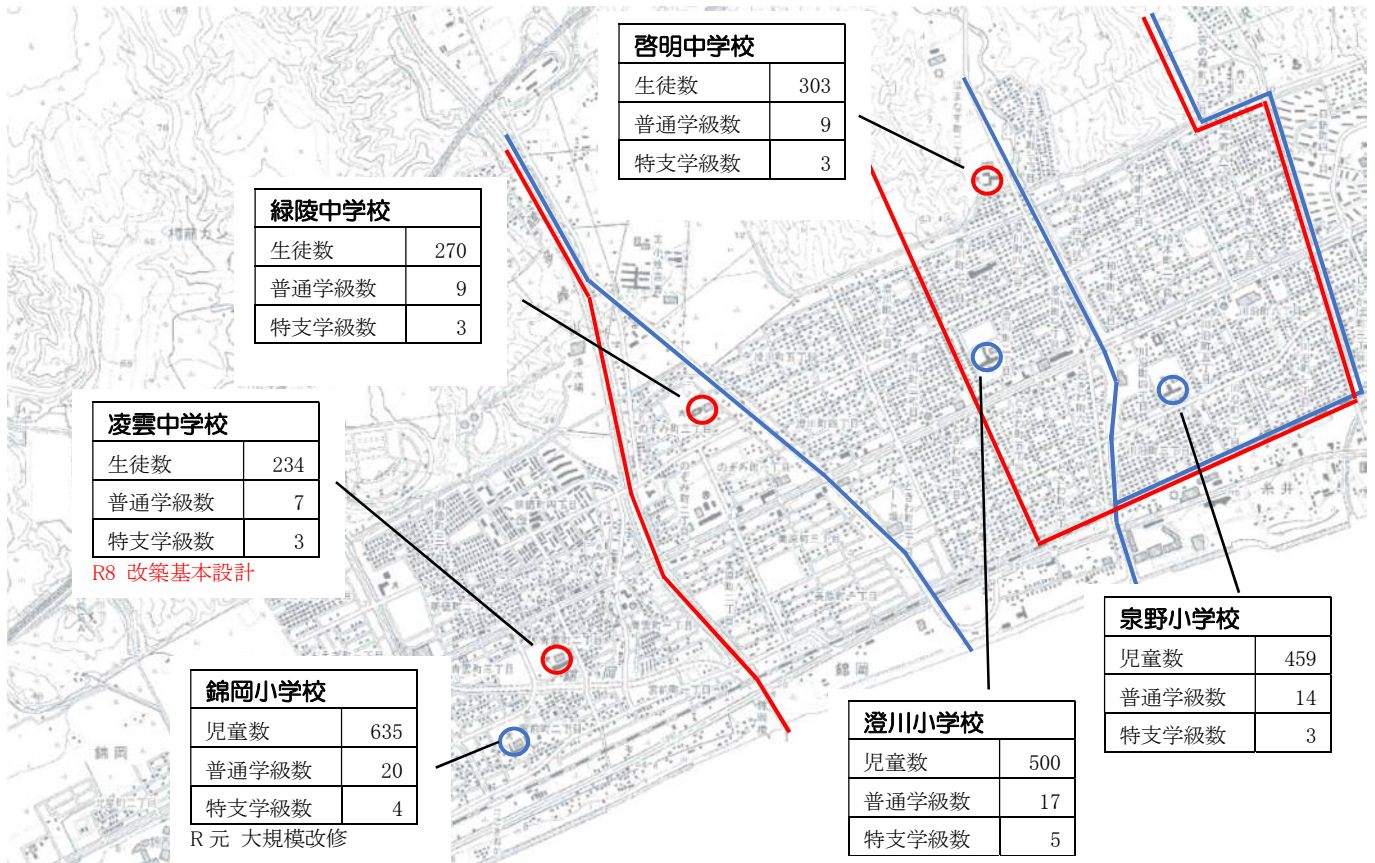
西地区



【現状】

・一部に宅地造成による増加もあるが、児童生徒数が減少、平成 31 年度末に明徳小学校を錦岡小学校に統合した。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
泉野小学校	児童数	438	451	432	441	442	397	380	355	338	310	291
	学級数	13	15	14	14	14	13	13	13	13	12	12
澄川小学校	児童数	554	497	499	491	475	458	442	427	411	394	360
	学級数	19	18	18	17	17	16	15	15	14	13	12
錦岡小学校	児童数	443	433	449	599	610	596	604	586	548	510	482
	学級数	14	13	14	20	20	20	20	20	18	16	16
明徳小学校	児童数	185	142	135								
	学級数	7	6	6								
啓明中学校	児童数	306	294	302	307	294	321	319	328	286	290	279
	学級数	9	9	10	9	9	10	10	10	9	9	9
緑陵中学校	児童数	283	286	284	271	258	268	269	253	246	255	270
	学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	9
凌雲中学校	児童数	295	229	215	214	226	223	205	201	206	216	208
	学級数	9	7	7	7	7	7	6	7	7	6	6

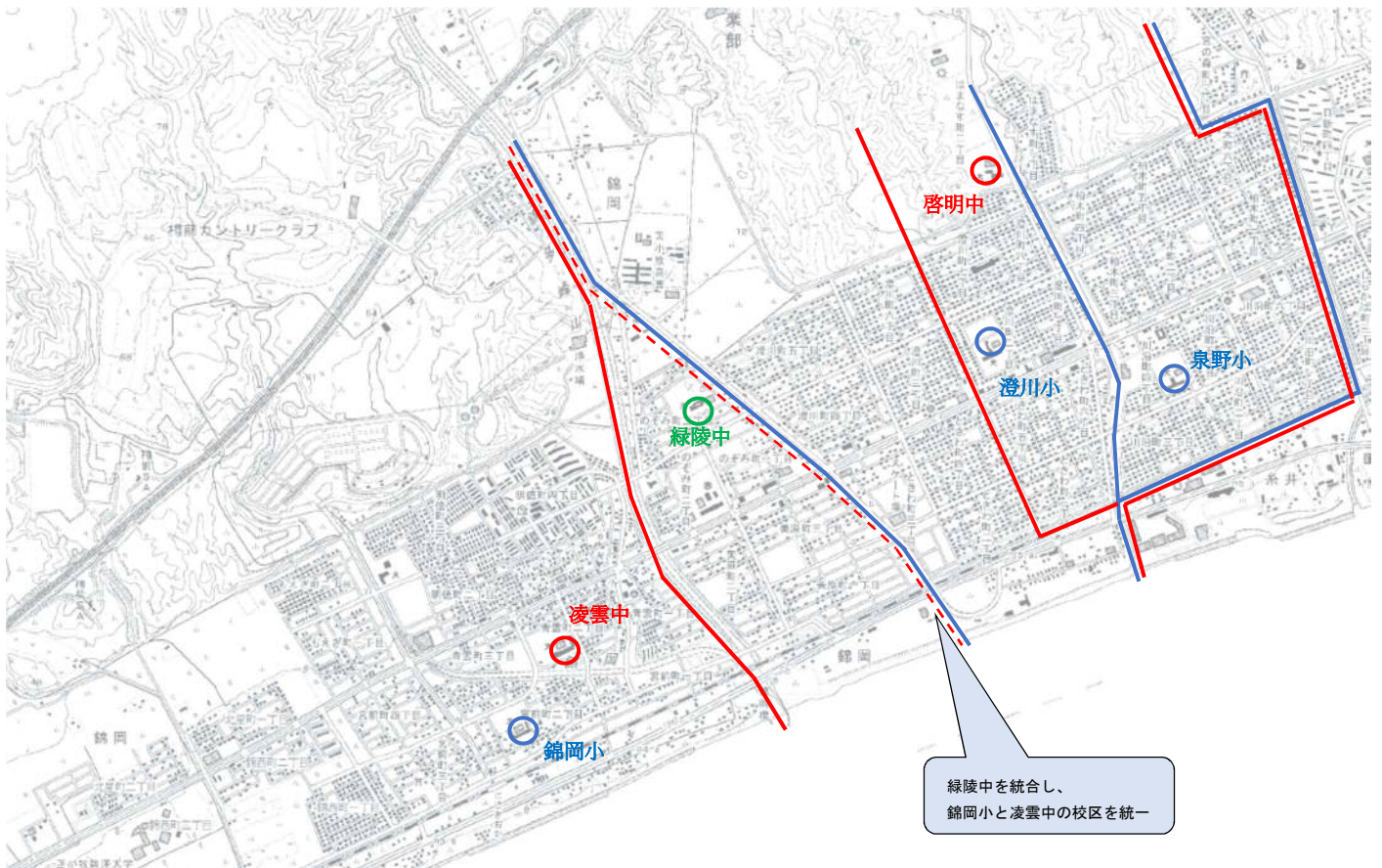
【課題】

- ・地区全体で児童生徒数の減少が著しい。明德小の小規模校化は錦岡小と統合することで解消されたが、中学校においては凌雲中が H30 年度から小規模校となっており、緑陵中も今後生徒数が減少していく見込みとなっている。
- ・小中学校の校区が一致しておらず、錦岡小、澄川小からの進学先の中学校が複数あり、生徒の分断が生じるとともに、各小中学校の連携においても課題となっている。
- ・R8 年度の凌雲中改築計画時期が方向性を定める期限となる。

【課題解決に向けた検討例】

- ・緑陵中を閉校して凌雲中・啓明中に統合し、校区も小学校に合わせて整理する。
- ・緑陵中を統合しない場合、錦岡小→凌雲・緑陵中、澄川小・泉野小→啓明中に整理する。

(緑陵中統合後の校区例)



B

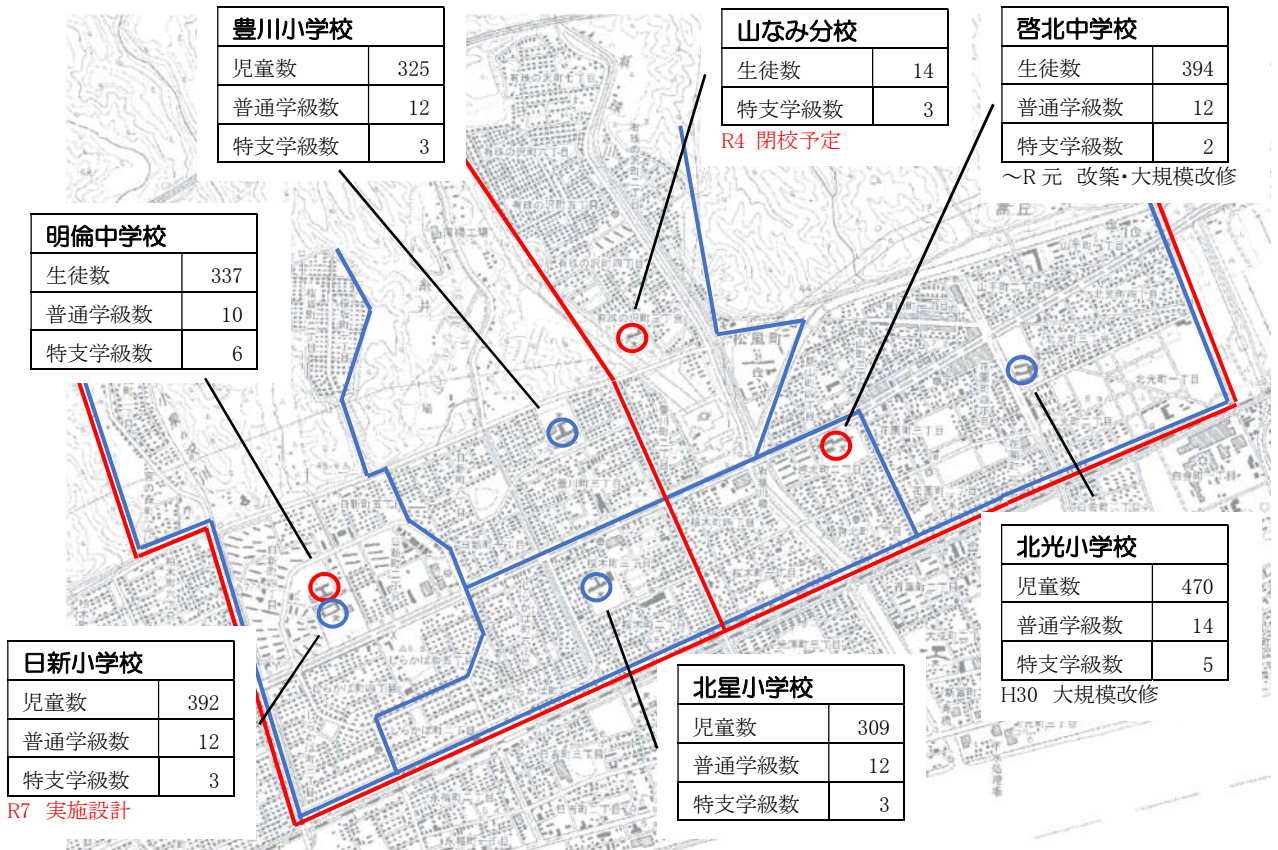
中央区



【現状】

- ・北光小学校区では宅地開発により児童数が増加しているが、その他の学校区では減少が著しい。
- ・小・中学校区、町内会の区割りが複雑である。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
北光小学校	児童数	394	433	432	427	441	463	483	493	505	497	479
	学級数	13	13	13	13	14	15	16	17	18	17	17
北星小学校	児童数	289	305	310	298	293	289	276	259	256	247	236
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	11	11	10	10
豊川小学校	児童数	343	307	332	327	313	316	318	316	296	284	275
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
日新小学校	児童数	455	390	386	376	378	347	317	304	278	234	214
	学級数	14	12	12	12	12	12	12	12	12	11	10
明倫中学校	生徒数	424	370	347	328	311	337	356	351	343	327	324
	学級数	13	12	11	11	10	10	11	11	11	10	9
啓北中学校	生徒数	398	339	355	346	383	385	371	359	359	376	392
	学級数	12	10	11	10	12	12	12	11	11	12	13

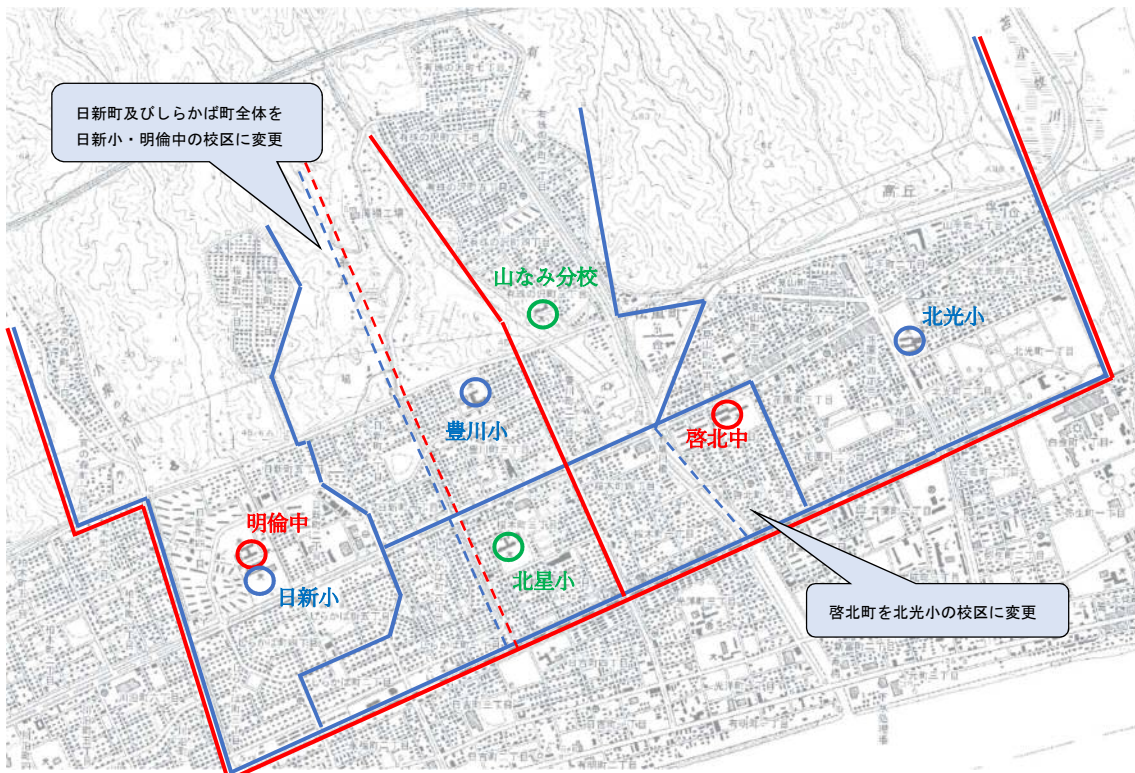
【課題】

- ・西部の学校では減少傾向が強く、北星小・日新小においては小規模校化が予想される。
- ・日新町・しらかば町において校区と町内会区が一致せず、地域との連携において課題となっている。
- ・豊川小、北星小の進学先の中学校が複数あり、生徒の分断が生じるとともに、小中連携の取組みにおいて課題となっている。

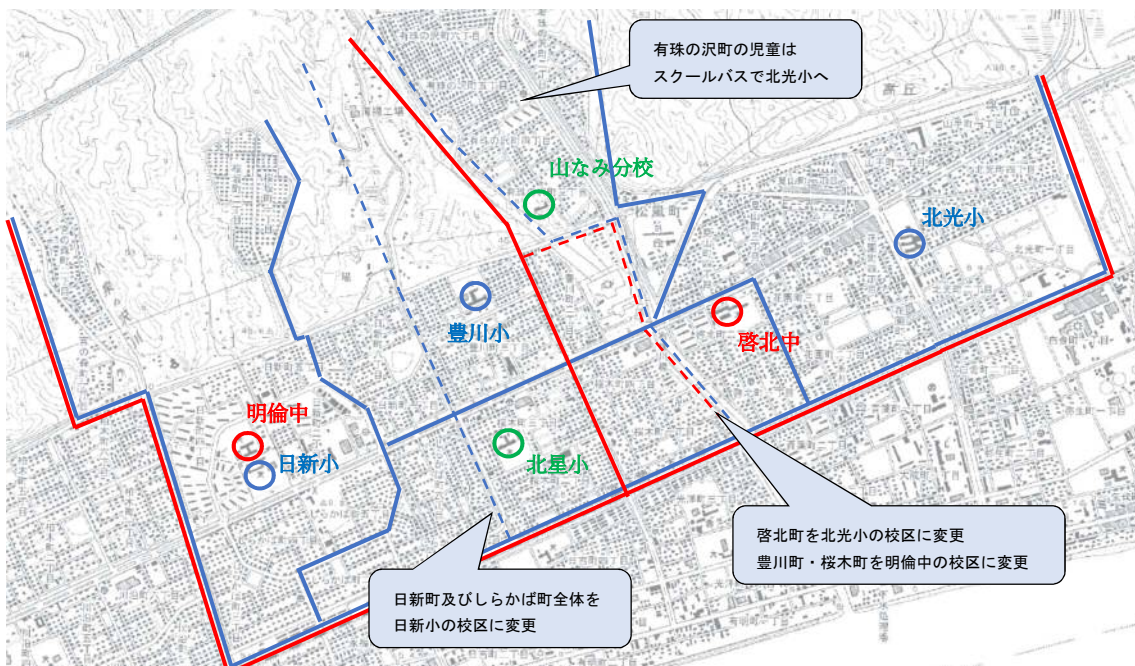
【課題解決に向けた検討例】

- ・北星小を閉校して日新小、豊川小に統合し、校区の整理を行う。
- ・校区の見直しについて、山側の住宅地（宮の森町、桜坂町、有珠の沢町）の通学距離について留意する必要がある。

（北星小統合後の校区例①）



（北星小統合後の校区例②）



C

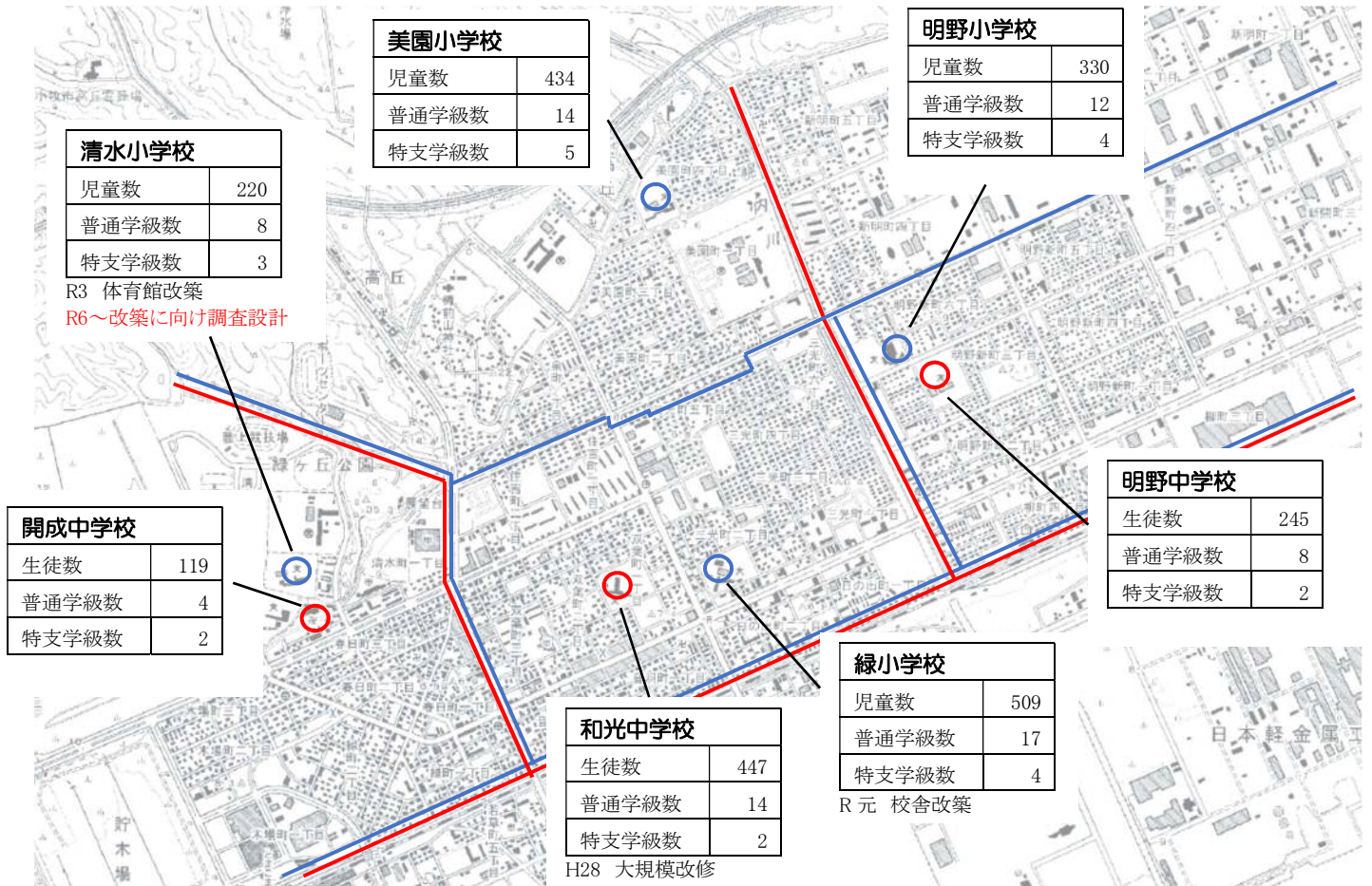
中心地北部



【現状】

・令和元年度に老朽化により、緑小学校舎の改築を行い、令和2年度には外構工事を完了した。また、令和3年度には清水小学校体育館の改築を行う。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
清水小学校	児童数	296	218	226	207	203	219	214	209	204	198	191
	学級数	12	9	9	9	8	9	9	9	9	8	8
美園小学校	児童数	476	481	445	429	415	429	427	428	396	378	364
	学級数	14	16	15	13	14	15	15	15	14	14	13
明野小学校	児童数	382	363	353	347	316	306	280	280	264	247	242
	学級数	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	9
緑小学校	児童数	637	525	494	496	485	464	466	438	420	402	387
	学級数	19	17	17	16	17	16	16	16	15	14	13
和光中学校	生徒数	466	478	479	460	439	417	422	399	403	403	408
	学級数	13	14	14	14	14	13	12	12	13	12	12
開成中学校	生徒数	126	147	130	132	114	103	96	95	110	112	110
	学級数	4	6	5	5	4	4	3	3	4	5	4
明野中学校	生徒数	242	229	243	224	238	217	218	205	216	213	205
	学級数	8	7	8	8	8	7	8	6	7	6	6

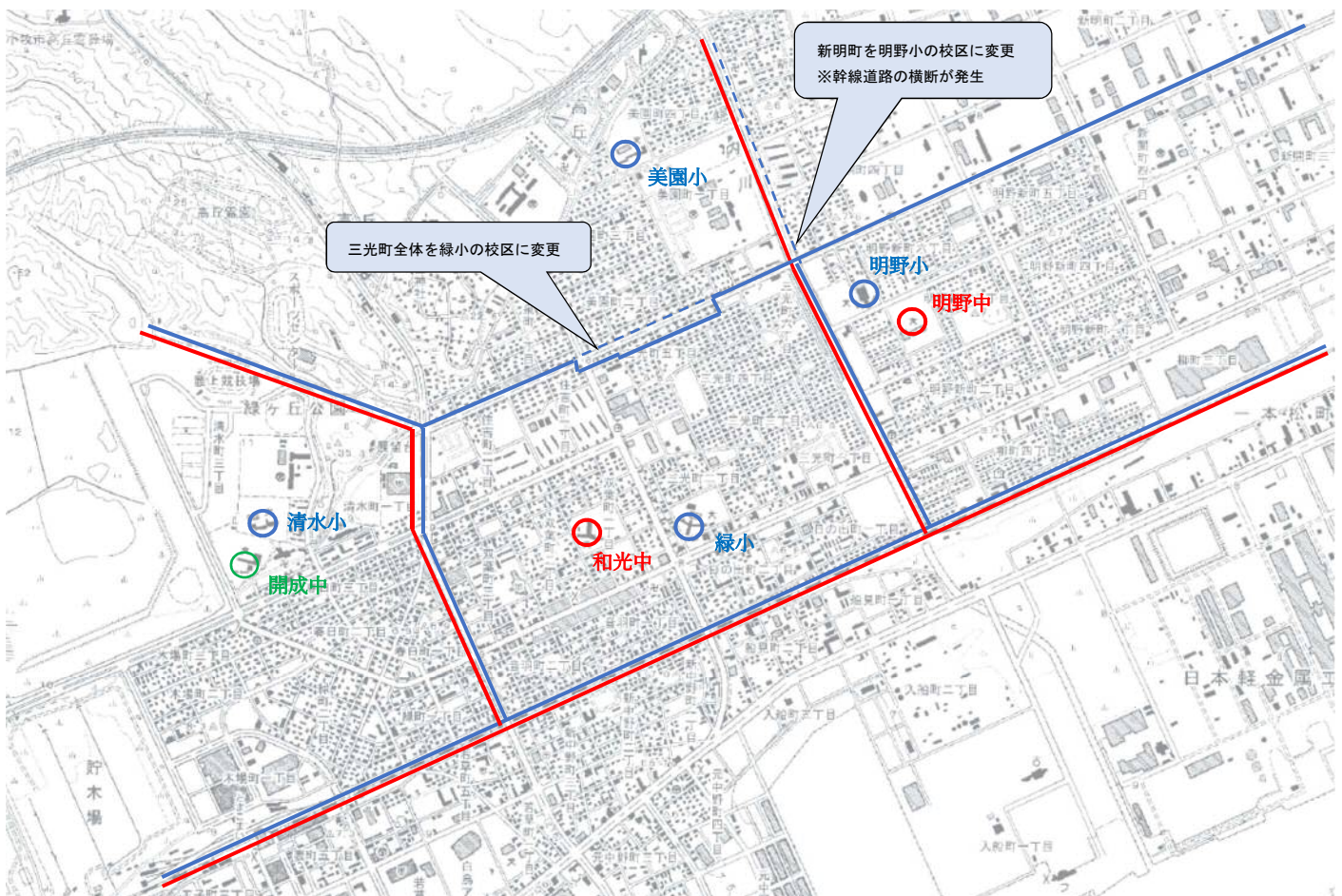
【課題】

- ・全体で減少傾向が強く、今後も小規模校化が進む見込みとなっている。
- ・小中学校の校区が一致しておらず、美園小からの進学先の中学校が複数あり、生徒の分断が生じるとともに、各小中学校の連携においても課題となっている。
- ・三光町の一部において複雑な校区分けとなっており、地域住民からの相談実績あり。

【課題解決に向けた検討例】

- ・美園小・明野小の学校区を見直し、和光中・明野中の校区と一致を検討する。
- ・美園小・緑小の学校区を見直し、複雑な校区分けや幹線道路の横断の解消を検討する。
- ・開成中について、清水小との併設校化や和光中との統合を検討する。

(開成中統合、美園小校区変更後の校区例)



D

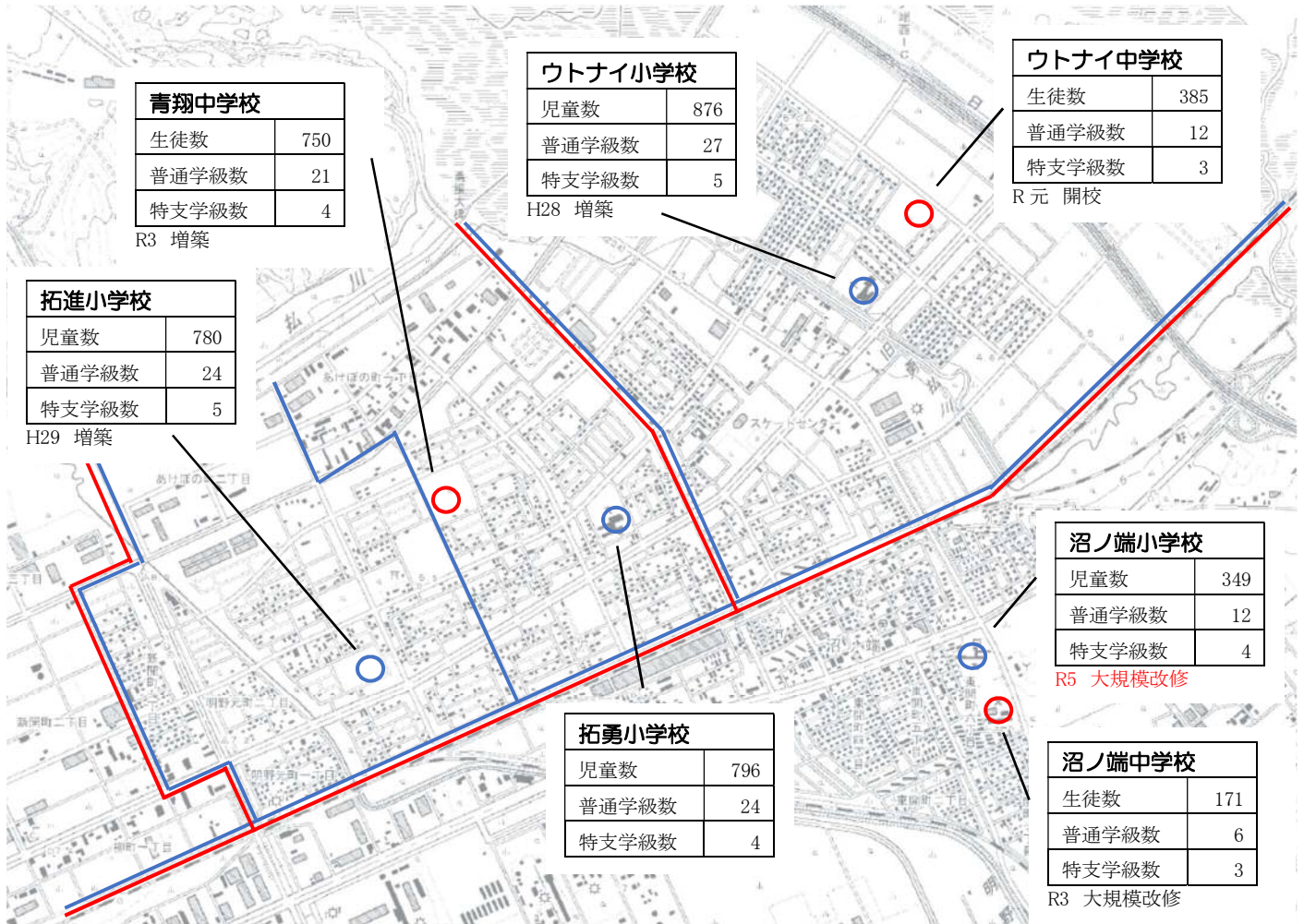
東地区



【現状】

・児童生徒数の増加が続いており、令和元年度にはウトナイ中学校が開校。令和3年度には青翔中学校で2度目の増築を実施。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

該当年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
沼ノ端小学校	児童数	335	344	336	326	324	309	293	304	337	340	340
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13
拓勇小学校	児童数	749	765	766	771	771	746	713	692	656	639	618
	学級数	23	24	24	24	24	23	22	22	21	20	20
ウトナイ小学校	児童数	769	821	825	844	857	913	899	891	895	854	816
	学級数	23	26	25	25	27	29	29	29	30	28	27
拓進小学校	児童数	670	768	770	772	753	742	699	657	619	565	542
	学級数	21	23	23	24	24	24	23	22	21	20	19
沼ノ端中学校	生徒数	596	528	147	160	165	190	182	178	149	144	146
	学級数	17	15	6	6	6	6	6	6	6	5	5
青翔中学校	生徒数	536	681	728	715	734	737	755	778	781	766	743
	学級数	16	20	21	20	21	22	22	22	22	21	21
ウトナイ中学校	生徒数			366	373	374	378	417	429	441	421	429
	学級数			11	12	12	12	13	13	14	13	13

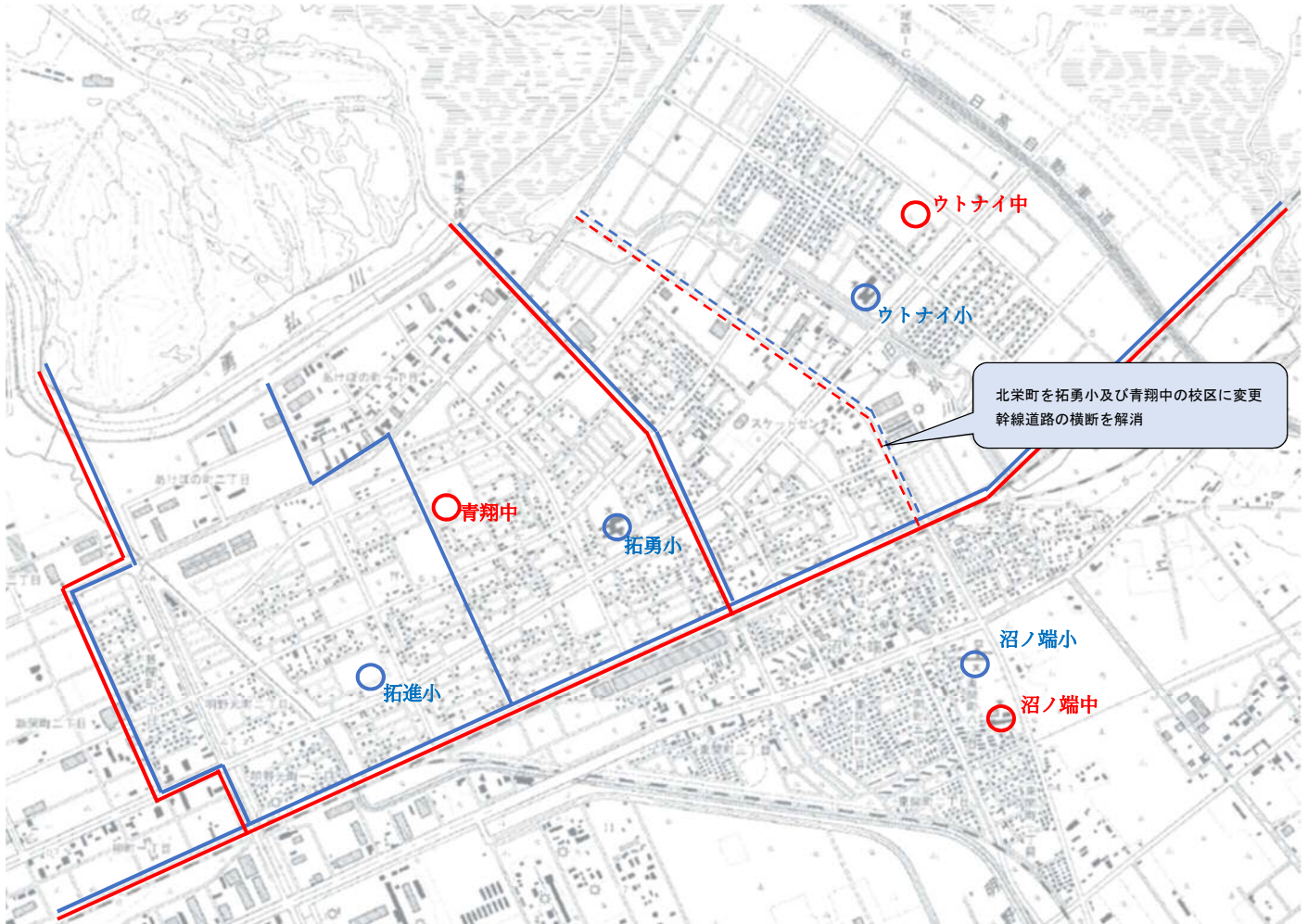
【課題】

- ・北側では児童生徒数が増加傾向にあり、ウトナイ小・青翔中が大規模校となっている。
- ・青翔中では2度の増築により教室不足を解消している。
- ・ウトナイ小では現在も教室が不足しており、PC教室の用途変更等により対応している。
- ・ウトナイ地区にはまだ未利用地も残っており、今後も分譲により人口増が見込まれる。
- ・対照的に南側では沼ノ端中学校が小規模校となっている。
- ・沼ノ端地区についても未利用地があり、人口増の可能性はある。

【課題解決に向けた検討例】

- ・ウトナイ小は増築や改修等により教室不足を解消するか、校区の見直しが必要。
- ・学校区の見直しによりウトナイ小から拓勇小へ児童を動かす場合、小中連携の観点から青翔中も校区を見直す可能性があり、大規模化がさらに進むことになってしまう。

(ウトナイ小校区変更後の校区例)



E

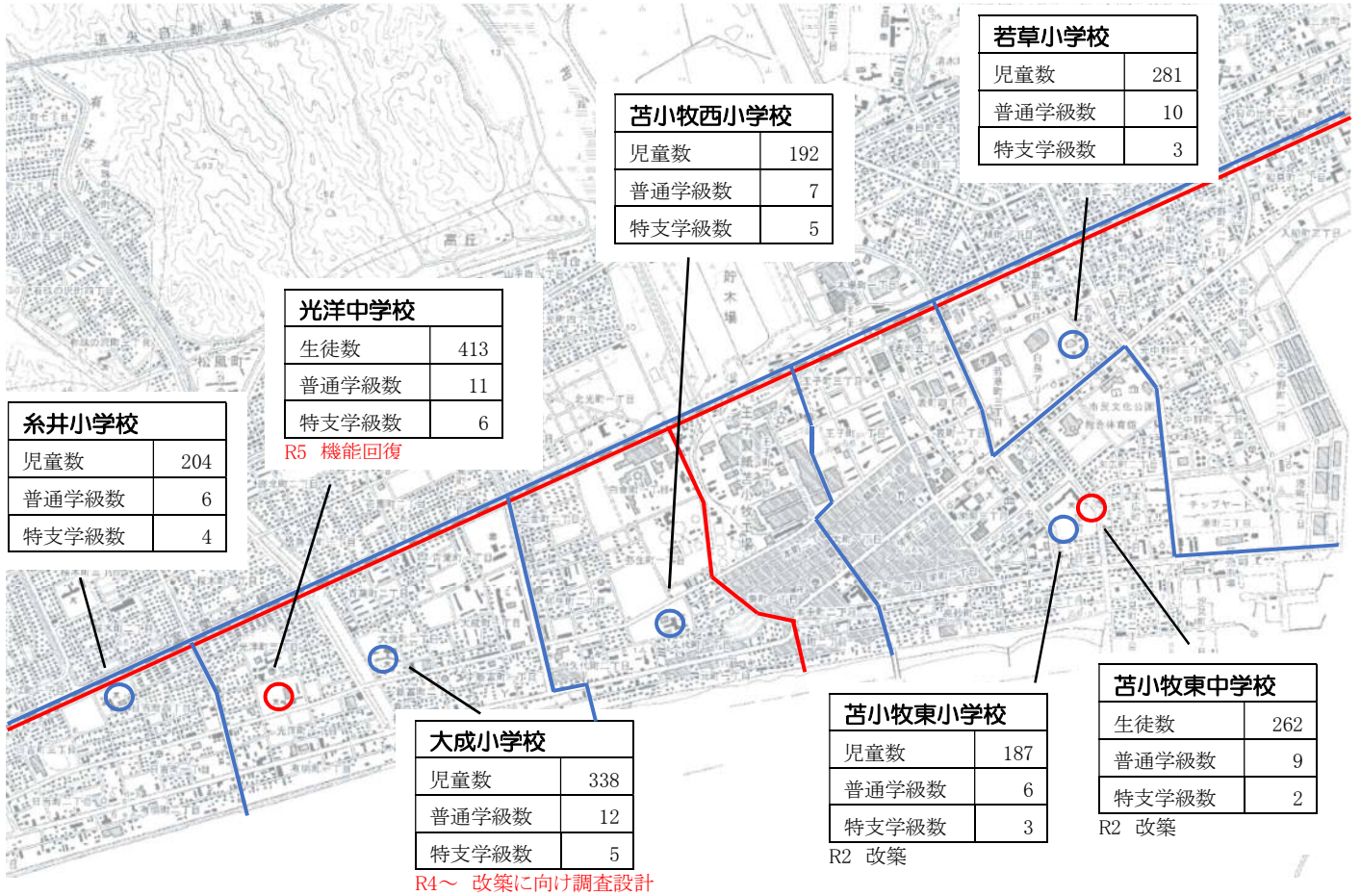
中心地南部



【現状】

・令和2年度に苦小牧東小・中学校が改築により、小中併設校となった。また、苦東小の移転に伴い、末広町を若草小から苦東小の学区に変更した。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

該当年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
苦小牧東小学校	児童数	232	203	186	179	172	185	208	217	226	240	258
	学級数	9	7	6	6	6	7	8	9	9	10	11
苦小牧西小学校	児童数	191	201	200	190	173	174	177	171	160	181	182
	学級数	6	8	8	8	7	7	7	6	6	7	7
若草小学校	児童数	379	312	289	276	266	248	235	219	223	231	238
	学級数	12	12	11	11	10	9	9	9	10	10	11
大成小学校	児童数	428	362	344	344	308	287	292	266	250	224	218
	学級数	13	13	12	12	12	11	11	11	11	10	9
系井小学校	児童数	246	231	206	200	183	174	165	154	155	147	147
	学級数	11	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6
苦小牧東中学校	生徒数	320	295	286	273	247	255	251	263	238	236	216
	学級数	10	9	9	9	9	8	8	9	8	8	6
光洋中学校	生徒数	471	397	388	358	389	355	336	330	327	334	302
	学級数	14	12	11	11	11	10	10	10	10	11	9

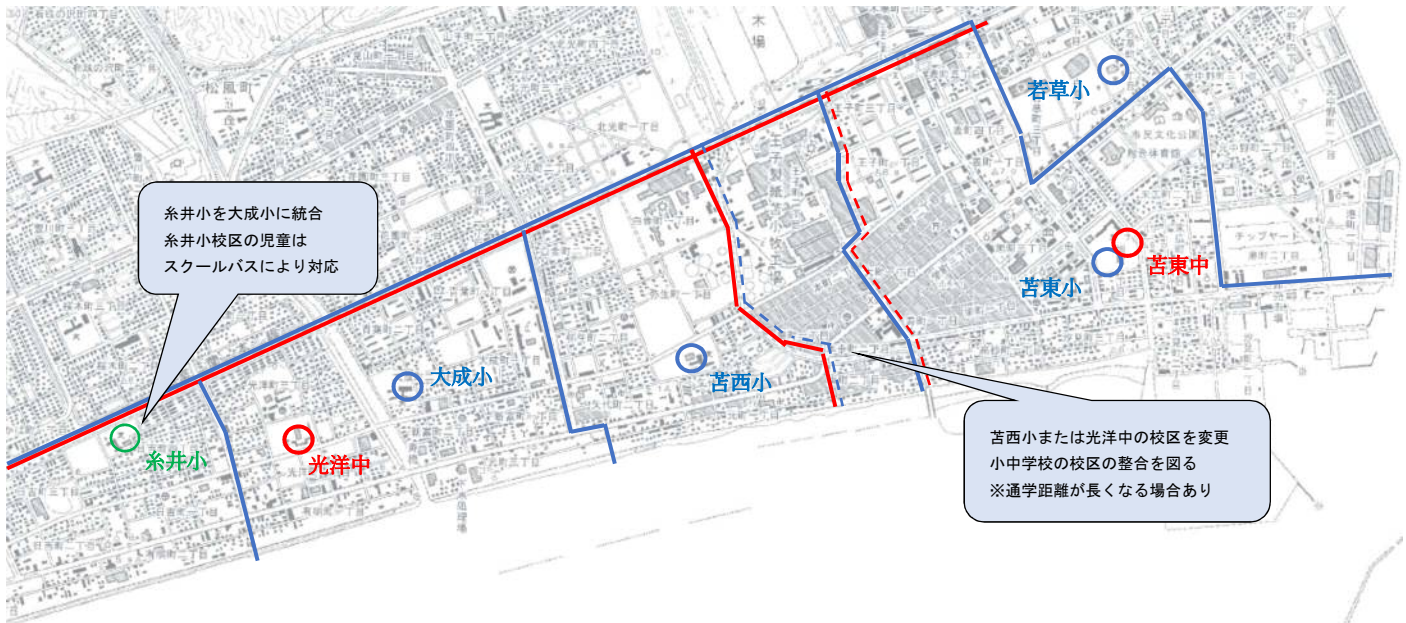
【課題】

- ・全体で減少傾向が強く、ほぼ全校が小規模校となる見込み。
- ・苦西小からの進学先の中学校が複数あり、生徒の分断が生じるとともに、各小中学校の連携においても課題となっている。

【課題解決に向けた検討例】

- ・苦西小または光洋中の校区を見直し、苦西小・苦東小及び苦東中・光洋中の校区の整合を図る。
- ・糸井小または大成小を閉校・統合することで小規模化の解消を検討する。

(糸井小を閉校、苦西小校区変更後の校区例)



(大成小を閉校、苦西小校区変更後の校区例)



Z

その他の地区

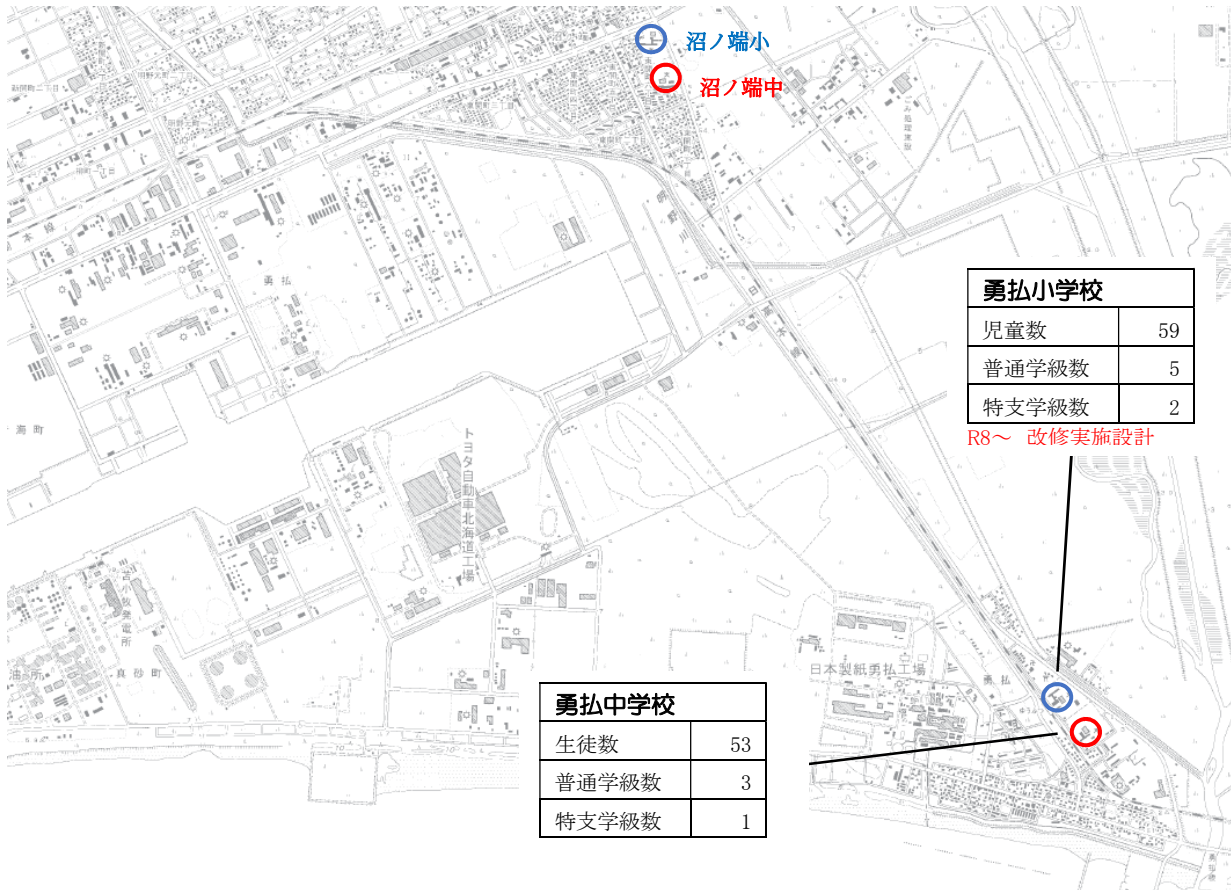
○勇払地区



【現状】

- ・日本製紙勇払の製紙業務撤退により人口減が進む。
- ・令和3年度の新入学生が2名、複式学級の編制や教職員数の減など学校経営上の変化が見られる。
- ・市内初のコミュニティスクール（学校運営協議会）の設置校として、地域一体となった学校づくりを行う。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
勇払小学校	児童数	129	100	84	71	53	59	56	54	52	50	59
	学級数	6	6	6	6	5	4	4	5	5	5	5
勇払中学校	生徒数	64	61	63	53	51	38	39	31	30	27	22
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

【課題】

- ・全体で減少傾向が著しく強く、勇払小では一部複式学級となっており、教員不足など学校運営において課題となっている。また、勇払中でも生徒数減により学校行事や部活動など制限されている。
- ・日本製紙の撤退や市営住宅戸数の半減など、人口の減少が著しい。
- ・近隣校は沼ノ端小・中であるが、5キロ程度離れている。

【課題解決に向けた検討例】

- ・沼ノ端小・中と統合する場合、スクールバスによる通学支援が必要。
- ・植苗小中と同様に小中併設化や義務教育学校化の検討できないか。
- ・併設化や義務教育学校化の場合は校舎改築が必要となるが、補助金面では義務教育学校の方が補助率が高くなる。

コミュニティ・スクールの取組

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域の方などで組織する「学校運営協議会」で「目指す子ども像」を共有し、保護者、地域とともに学校運営に取り組む学校のことです。

本市では、平成30年から勇払小・中地区でモデル事業として実施、現在、勇払小・中地区、清水小・開成中地区において本格導入しています。



義務教育学校

義務教育学校とは、現行の小学校、中学校に加え、9年間の義務教育を一貫して行う学校（校種）のことです

	小中併置校（植苗小中）	義務教育学校
組織体制	校長1名、小・中教員配置基準によりそれぞれ定数配置	校長1名、小・中教員配置基準に準じ、義務教育学校教員として配置 ※小・中両免許を持つ教員を配置
教育活動	教育課程の組換えは行えない。	前期課程、後期課程で組換えなど柔軟に行うことができる。
小中連携	乗り入れ授業など校内支援を実施	すべての教員が9年間の子どもの教育を一体となって行う。

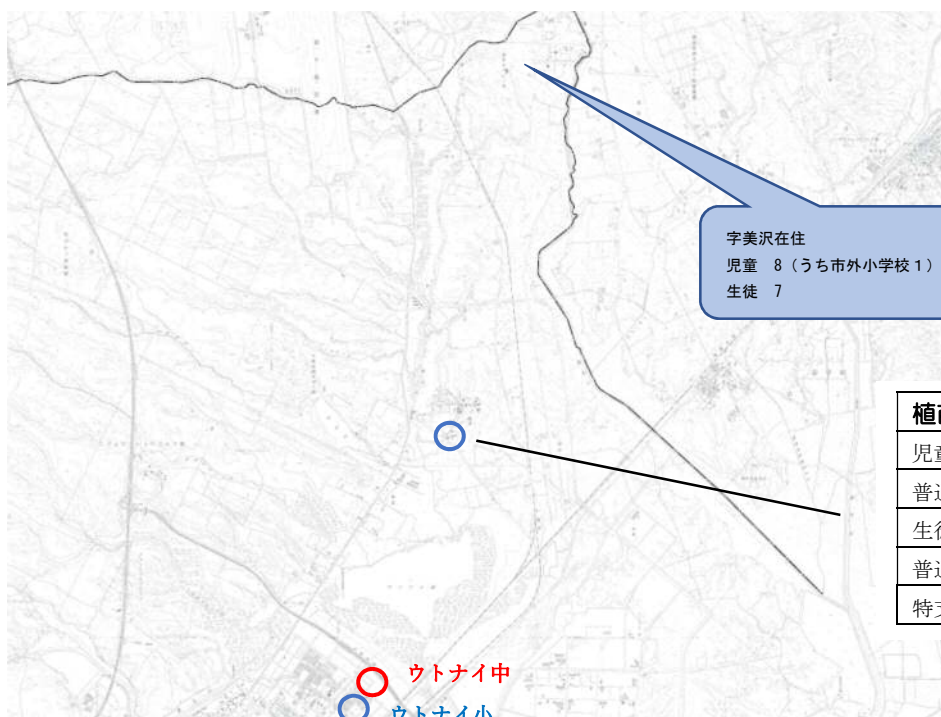
○植苗地区



【現状】

- ・市内唯一の小中併置校で、学校規模が小さく、小学校は複式学級で運営している。
- ・校区が広く、スクールバスにより通学支援を行っている。

【学校位置図】



字美沢在住
児童 8 (うち市外小学校 1)
生徒 7

植苗小中学校	
児童数	44
普通学級数	4
生徒数	34
普通学級数	3
特支学級数	1

【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
植苗小学校	児童数	58	54	55	49	44	44	41	42	43	35	37
	学級数	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4
植苗中学校	生徒数	34	18	21	30	33	31	24	20	23	25	24
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

【課題】

- ・道営住宅の誘致等の動きはあるが、児童生徒数が少ないまま横ばいで推移している。
- ・一部複式学級となっており、学校運営において課題となっている。
- ・小中併置校だが義務教育学校ではないため、学校内における業務配分において課題が生じている。
- ・R3年度から特支学級が新設されたため、今後複式学級が解消された場合は教室不足が生じる。

【課題解決に向けた検討例】

- ・学校、地域からも義務教育学校化の声があり、すでに校舎も併設されていることから、条例、規則の改正により義務教育学校とし、小中一貫・連携教育を推進できないか。

○樽前地区



【現状】

- ・ 苫小牧市唯一の特認校として特色ある学校運営を行っている。
- ・ 学校規模が小さく、複式学級で運営している。

【学校位置図】



【児童生徒数推移（普通学級のみ）】

年度		H26	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
樽前小学校	児童数	34	25	30	32	26	24	17	12	10	4	2
	学級数	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4

特認校

樽前小学校は、「豊かな自然に恵まれた小規模な学校で、心身の健康増進を図るとともに個性豊かな児童を育成する」ことを目的に、校区外からの通学を認める学校です。



第3節 課題解決に向けた検討について

1. 課題の解決方法について

各地区における課題の解決にあたり、学校の小規模化・大規模化にはそれぞれメリット・デメリットがあるため、一概に規模適正化を推し進める必要はない。第一には、学校への人的支援や小中、地域との連携強化など学校運営の在り方を工夫することで、学校規模によるメリットの最大化・デメリットの最小化を進め、課題の解決を図ることとする。

学校運営の工夫による課題解決が困難な場合においては、本資料で示した検討例を参考に学校の統廃合や校区の変更などの具体的な課題解決方法について協議を進めることとする。

	小規模校	大規模校
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに目が届き、きめ細やかな指導 各種行事で一人ひとりに活躍の機会 深い人間関係 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方に触れ、切磋琢磨しあえる 多様な学習・指導形態が可能 豊かな人間関係、多様な集団の形成が可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方に触れ、切磋琢磨しあう機会が少ない 人数不足により学習・指導形態に限りがある 人間関係の固定化 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの把握が難しくなりやすい 各種行事で一人ひとりに活躍の機会が与えにくい 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい

2. 各地区における課題の優先順位について

各地区において抽出した課題を、以下の関連要因のうち該当となる数に応じて優先度を高・中・低の3段階で順位付けする。

- ① 学校規模が適正でない。(過大規模・過小規模化：◎、大規模・小規模化：○)
- ② 小学校と中学校区の不一致など小中連携に支障
- ③ 施設整備計画にて改築や大規模改修の予定あり（5年以内：◎、6年以降：○）
- ④ 町内会等地域からの改善要望あり

地区	課題	関連要因				優先度
		①	②	③	④	
A	凌雲中学校の小規模化、改築 小中学校区の不整合	○	○	◎		高
B	北星小学校の小規模化 小中学校区の不整合 小学校区と町内会の不整合		○		○	中
C-1	開成中学校の小規模化	○				低
C-2	美園小学校の校区整理		○		○	中
D	ウトナイ小学校大規模化による教室不足	◎		○		高
E-1	苫小牧西小学校からの進学先の整理	○	○			中
E-2	糸井小学校の小規模化	○				低
Z-1	勇払小・中学校の小規模化	◎		◎		高
Z-2	植苗小中学校の義務教育学校化	◎		◎	○	高

3. 今後の検討スケジュール案

優先順位が高・中の課題について、内容や施設整備計画との整合性等をもとに、今後のスケジュールの検討を行う。また、スケジュール案については、児童生徒数の増減や社会情勢の変化にあわせて随時見直しを図るものとする。

	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
D ウトナイ小の大規模化	→							
Z-2 植苗小中の義務教育学校化		→						
Z-1 勇払中の小規模化				→				
A 凌雲中の小規模化				→				
E-1 苫西小からの進学先の整理						→		
C-2 美園小の校区整理						→		
B 北星小の小規模化							→	
C-1 開成中の小規模化							→	
E-2 糸井小の小規模化								→



令和2年3月 明徳小学校 閉校